

地方分権改革のこれまでの経緯と成果－個性を活かし自立した地域をつくる－

開催日 平成27年12月2日(火)

場 所 公益財団法人 東北自治研修所
(宮城県黒川郡富谷町 東北自治総合研修センター)

科 目 地方分権改革のこれまでの経緯と成果
(第197回中堅職員研修)

説明者 内閣府地方分権改革推進室参事官 穴戸 邦久

参加者 31名

概 要

- ・9週間の中堅職員研修の1コマ(3時間)で「地方分権改革のこれまでの経緯と成果」と題し、地方分権改革のこれまでの経緯と成果及び現在行っている「提案募集方式」について、事例を取り上げて丁寧に解説した。特に「提案募集方式」は、自治体の独自性を活かした政策展開が可能であること、自治体職員が自らの発想と創意工夫により課題解決を図る意欲を持って取り組むことの重要性を説いた。
- ・研修後のアンケート結果では、「各自治体が特性を活かして取り組んでいるのが興味深く、住民に一番近い市町村職員としての使命感を見直す機会となった。」、「地方創生が叫ばれ、地方分権改革が進展する中、県や市町村職員が自らの自治体の発展のために必要な知識や能力を身に付け、執行して行く必要性を強く感じた。」等の意見が寄せられた。

